

# 彙 報

## 彙 報 第 一

前会長 小 泉 保

### 日本学術会議第15期会員候補者等選出結果の報告

日本学術会議第15期会員候補者等選出のための委員による郵送投票を下記の通り行なった。

平成2年12月19日 投票用紙発送

平成3年1月7日 投票締切

開票は下記の選挙管理委員会で行なわれた。

日 時：平成3年1月15日（火）午後2時30分～4時30分

場 所：三省堂大阪支社

出席者：小泉 保（会長）、影山太郎、近藤達夫、崎山 理、佐藤昭裕、  
杉藤美代子、徳川宗賢。

オブザーバー：寛 壽雄（常任委員）、諏 司郎（常任委員）。

開票の結果は下記の通り。

語学・文学研究連絡委員会に係る会員候補者

当選 柴田 武

次点 徳川宗賢、松本克己

東洋学研究連絡委員会に係る会員候補者

当選 北村 甫

次点 池上二良

語学・文学研究連絡委員会に係る推薦人・推薦人予備者

当選 小泉 保（推薦人）

当選 国広哲弥（推薦人予備者）

次点 風間喜代三



無効（白票を除く） 1

当 選	柴谷 方良	27票
次 点	土田 滋	17票
次々点	松本 克己	16票

## 3. 会計監査委員選挙

投票数	516	うち有効投票	492
	(258×2)	白票	22

無効（白票を除く） 2

当 選	上野 善道	22票
当 選	土田 滋	16票
次 点	大江 孝男	14票
次々点	近藤 達夫	13票

## 4. 委員選挙

選挙細則に基づき、当選者名のみを各地区別に五十音順に掲げる。

〔北 海 道〕（2名）：池上二良，村崎恭子。

〔東 北〕（3名）：加藤正信，中村 完，福地 肇。

〔関 東〕（31名）：石綿敏雄，井出祥子，井上和子，井上史雄，梅田博之，大江孝雄，大津由起雄，荻野綱男，奥津敬一郎，尾上圭介，風間喜代三，神尾昭雄，菊地康人，北村甫，金田一春彦，国広哲弥，W. グロータース，柴田 武，下宮忠雄，城生伯太郎，鈴木孝夫，竹林滋，田中克彦。

〔中 部〕（8名）：阿部泰明，小泉 保，澤田治美，清水克正，高見健一，柘植洋一，馬瀬良雄，矢野通生。

〔近 畿〕（19名）：寛 壽雄，影山太郎，近藤達夫，崎山 理，佐藤昭裕，真田信治，柴谷方良，庄垣内正弘，杉藤美代子，徳川宗賢，成田義光，西田龍雄，西光義弘，仁田義雄，林 栄一，堀井令以知，藪 司郎，山梨正明，吉田和彦。

〔中国・四国〕（4名）：岩倉国浩，竹内和夫，樋口康一，吉川 守。

〔九州・沖縄〕（3名）：早田輝洋，松田伊作，縄田鉄男。

以上 70 名

\* 松本克己，上野善道，土田 滋の3氏（いずれも関東）は，委員当選に足る票数を得たが，それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため，兼任禁止規定により，委員とはならない。これに伴い当該地区で繰上げ当選が生じた。

#### 平成2年度会計報告

平成2年度の決算は別表1の通り。これは，平成3年4月20日（土）会計監査委員梅田博之，南 不二男両氏より，適正であると認められ，平成3年度第1回委員会（彙報第二参照）で承認されたものである。

## [別表1] 平成2年度 日本言語学会決算

自平成2年4月 至平成3年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	8,954,930	1 刊 行 費	4,506,962
C 雑 誌 売 上	1,058,685	2 編 集 費	200,000
D 文 部 省 補 助 金	480,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	2,266,371
E 預 金 利 息	61,286	4 大 会 関 係 費	1,061,480
F 雑 収 入	454,819	5 委 員 会 費	100,000
		6 常 任 委 員 会 費	191,939
		7 九 学 会 連 合 会 費	0
		8 C I P L 負 担 金	70,250
		9 選 挙 関 係 費	568,342
		10 通 信 費	164,695
		11 事 務 費	573,025
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	717,000
		14 記 念 事 業 費	506,458
		15 名 簿 作 成 費	822,875
		16 雑 費	0
収 入 合 計	11,009,720	支 出 合 計	11,749,397
A 前 期 繰 越	1,789,639	次 期 繰 越	1,049,962
計	12,799,359	計	12,799,359

◇ 支 出 内 訳

1. 刊 行 費	98号	割付・校正料	238,464
	184 p.	印 刷 費	2,054,850
		小 計	2,293,314
	99号	割付・校正料	243,648
	184 p.	印 刷 費	1,970,000
		小 計	2,213,648
		合 計	4,506,962
3. 学会センター委託費		業務委託費	1,522,704
		送料, コピー代, 通信費等	743,667
		計	2,266,371
4. 大会関係費	第100回	プログラム割付・校正料	176,100
		プログラム・出欠葉書印刷費	86,520
		大会費	264,600
		小 計	527,220
	第101回	プログラム割付・校正料	168,000
		プログラム・出欠葉書印刷費	94,760
		大会費	271,500
		小 計	534,260
		合 計	1,061,480

9. 選挙関係費	学会センター選挙関係委託費	315,800
	選挙人名簿発送郵税	83,762
	投票用紙等9点発送郵税	131,280
	選挙管理委員会費	37,500
	計	568,342

10. 通 信 費	東 京	111,567
	大 阪	53,128
	合 計	164,695

## 11. 事 務 費

	一般事務費	交 通 費	計
東 京	170,667	128,750	299,417
大 阪	98,108	175,500	273,608
計	268,775	304,250	573,025

## 14 記念事業費

第100回記念大会費	50,000
ポスター版下代	15,000
ポスター印刷代	40,788
『100回の歩み』印刷代	400,670
計	506,458

彙 報 第 二

会 長 松 本 克 己

平成3年度第1回常任委員会

日 時：平成3年4月20日（土）午後1時～6時

場 所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長）、角田太作（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、崎山理、佐藤昭裕、長嶋善郎、仁田義雄。

オブザーバ：柴谷方良（編集委員長）、土田 滋（会計監査委員）、上野善道（会計監査委員）、千野栄一（大会運営委員長）、梅田博之（大会運営補佐）。

議事ならびに報告：

(1) 平成3年度予算案について

予算案を審議し、具体案を作成した。

「言語研究」100号記念事業として、100号分の総索引と著者索引を別冊で作り全会員に配布する案について審議した。

(2) 第102回大会（平成3年度春季大会）について

研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。

(3) 第103回大会（平成3年度秋季大会）について

当日までに候補校が決まらなかったために、可能性のあるいくつかの線でご早急に交渉することにした。

(4) 第15回国際言語学会議について

日本言語学会から代表者を送るかどうかについて議論し、当面、学会議有資格者に立候補してもらうことにした。さらに、日本言語学会の規則について改訂する案も考慮することにした。

(5) 予稿集について

継続的に審議していくことになった。

## 平成3年度第1回委員会

日 時：平成3年6月8日（土）午前10時～午後1時

場 所：東京外国語大学2号館AA研大会議室

出席者：松本克己（会長）、池上二良、村崎恭子、竹内和夫、樋口康一、井出祥子、井上和子、井上史雄、梅田博之、大江孝男、荻野綱男、奥津敬一郎、尾上圭介、菊地康人、柴田 武、下宮忠雄、城生佰太郎、角田太作、原口庄輔、南 不二男、村山七郎、矢島文夫、湯川恭敏、阿部泰明、小泉 保、清水克正、筧 壽雄、近藤達夫、崎山 理、佐藤昭裕、真田信治、柴谷方良、杉藤美代子、徳川宗賢、西田龍雄、西光義弘、林 栄一、齋 司郎、山梨正明、吉田和彦（以上40名）

委任状：24名

オブザーバ：上野善道（会計監査委員）、土田 滋（会計監査委員）、千野栄一（大会運営委員長）

議事に先立って、大会委員長・会長より挨拶があった。

議事ならびに報告：

- (1) 平成3年度第1回常任委員会の報告があった。
- (2) 平成2年度の決算報告があり、承認された。彙報第一の別表1に示した通りである。
- (3) 平成3年度予算を決定した。（別表2参照。）今年度は「前年度並み」を基本方針にして作成した。
- (4) 第15期学術会議会員候補者等の選挙結果について、前会長小泉保氏から報告があった。1990年暮れに郵送による投票があり、1991年1月15日の選挙管理委員会で開票、語学文学研究連絡委員候補者として柴田武氏（推薦人は小泉保氏）、東洋学研究連絡委員候補者として北村甫氏（推薦人は梅田博之氏）が選ばれた。その後、柴田武氏が研究連絡委員に任命された。
- (5) 学術会議研究連絡委員・柴田武氏から「人文系研究基盤の整備について」という勧告が5月30日の学術会議の大会を通った旨の報告があった。
- (6) 選挙管理委員の選挙が行なわれ、開票は旧選挙管理委員で委員会に出

席した人があつた。その結果、次の方々が選挙管理委員になつた。湯川恭敏・井出祥子・井上史雄・角田太作・下宮忠雄・南不二男・田村すず子。次点者は村木正武、次次点者は宮島達夫だつた。

- (7) 編集委員長・柴谷方良氏から、「言語研究」の編集方針について説明があり、さらに、100号記念事業は特に行なわれないが、「言語研究」の総索引をつけることを検討している旨の報告があつた。これは、総目次と著者名から引けるような索引からなる予定である。
- (8) 第103回大会については、南山大学で10月26日・27日に行なわれることが決定された。これに伴い、大会委員長代理阿部泰明氏から挨拶があつた。
- (9) 会長から、第15回国際言語学会議が1992年8月にカナダで開かれる予定であることが報告され、言語学会として代表を送るべきかどうかを検討した。従来の方式で代表を選んでも旅費が手当できないことを考慮し、①学術会議のメンバーが出ている場合にはその人をお願いする、②言語学会の会則（選出方法）を変える、③学会で旅費を負担して派遣する、などの諸案について検討した。この委員会では結論が出ず、次回に持ち越しになつた。
- (10) 杉藤美代子氏から、言語学会が平成4年に開かれる予定の国際シンポジウム「音声教育と日本語教育」の協賛団体になることについて提案があり、了承された。
- (11) 会長から、言語学用語集の編集が進んでおり、第1次試案が作成された段階である旨の報告があつた。

## 〔別表 2〕 平成 3 年度 日本言語学会予算

自 平成 3 年 4 月 至 平成 4 年 3 月

(単位円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 会 費	9,000,000	1 刊 行 費	4,500,000
C 雑 誌 売 上	1,000,000	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	480,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	2,000,000
E 預 金 利 子	10,000	4 大 会 関 係 費	1,000,000
F 雑 収 入	0	5 委 員 会 費	150,000
		6 常 任 委 員 会 費	300,000
		7 CIPL 負 担 金	80,000
		8 選 挙 関 係 費	0
		9 通 信 費	200,000
		10 事 務 費	600,000
		11 設 備 費	0
		12 事 務 局 職 員 謝 金	700,000
		13 記 念 事 業 費	500,000
		(言語研究 100 号記念号)	
収 入 合 計	10,490,000	14 予 備 費	1,100,000
A 前 期 繰 越	1,049,962	15 雑 費	9,962
計	11,539,962	計	11,539,962

第102回大会

期 日 平成3年6月8日(土)・9日(日)

会 場 東京外国語大学

第1日(6月8日)

開会の辞 午後1時30分より

会長就任講演

主語について

松本克己

休 憩

リレー講演 午後3時30分より

《世界の言語調査》

序 説

千野栄一

ヨーロッパ

富盛伸夫

中 国

Jerry Norman

中 東

林 徹

アフリカ

加賀谷良平

会員懇親会 午後6時15分～8時

第2日(6月9日)

午前 研究発表 午前10時～12時20分

・A 会 場

(A1) 地名ないし民族名から派生するポーランド語の語彙について

渡辺克義

(A2) モンゴル語の再帰語尾について

水野正規

(A3) 中国語の結果補語をとる[V-得]文の構造について

沈 力

(A4) ポリネシア系 Pukapuka 語における関係詞節内の

格標示の特徴について——Chung (1978) の記述の

問題点について

田辺和子

## ◦ B 会場

- |       |                |         |
|-------|----------------|---------|
| (B 1) | 日本語の受身と「被害」の意味 | 西川 真理子  |
| (B 2) | 心理的距離認知機構とコソア  | 岩 畑 貴 弘 |
| (B 3) | 日本語の与格主語について   | 上 田 雅 信 |
| (B 4) | 日本語相対自動詞と受動態   | 佐 藤 琢 三 |

## ◦ C 会場

- |       |  |           |
|-------|--|-----------|
| (C 1) | Adverbial elements in middle constructions | 有 吉 淳 一 郎 |
| (C 2) | Predication in Japanese                    | 宇 根 谷 孝 子 |
| (C 3) | 機能的音韻障害に観られる「傾向」と「個人差」の<br>言語学的説明を求めて      | 上 田 功     |
| (C 4) | 東京方言可能形の変異／変化拘束条件                          | 松 田 謙 次 郎 |

会員総会 1時10分～1時40分

午後 研究発表 1時40分～4時30分

## ◦ A 会場

- |       |                                    |         |
|-------|------------------------------------|---------|
| (A 5) | 満州語文語における変異形について                   | 山 崎 雅 人 |
| (A 6) | 中国語閩南方言の音節主音的鼻音 [m] [ŋ] の音韻論的解釈    | 堀 博 文   |
| (A 7) | 音響音声学による大邱方言のアクセントの分析——<br>日本語との対照 | 金 善 姫   |
| (A 8) | ミャオ語の声調 3分                         | 宇 佐 美 洋 |
| (A 9) | バン語の動詞声調クラスをどのように設定するか             | 中 川 裕   |

## ◦ B 会場

- |       |   |         |
|-------|---|---------|
| (B 5) | 発話行為としての日本語の依頼に関する実証的研究                       | 小 林 正 佳 |
| (B 6) | 日本語の Modality と発話の倫理的責任                       | 石 原 淳 也 |
| (B 7) | 過去の助動詞キと反実仮想の助動詞マシの起源                         | 藤 原 明   |
| (B 8) | 計量文法論の理論と方法——私はなぜ「*」や<br>「?」のついた文による文法研究をしないか | 荻 野 綱 男 |

- (B9) ブル語の形容表現 湯川 恭 敏
- ・ C 会 場
- (C5) フィリピン諸語における目的語の対称性について 片 桐 真 澄
- (C6) タガログ語の語順と  $\theta$  役割付与の方向性 原 田 龍 二
- (C7) Ergative construction in Hindi-Urdu 寺 田 寛
- (C8) 品詞の類型論——形容詞の位置付け 皆 島 博
- (C9) 名詞句からの外置に関する機能的制約 高 見 健 一

閉会の辞



- 通信 第70号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1990)  
 テクスト言語学と文学批評  
 (ヤーノシュ・ペテフィ, ガルシーア＝ペッリオ編著)  
 (文化書房博文社 1990)
- 展示会ガイド No. 21 (コンベンション・フォーラム 1991)
- 東方学 第八十一輯 (東方学会 1991)
- 東方学会報 N. 59 (東方学会 1990)
- 東洋学報 第72巻 第1・2号 (東洋文庫 1990)
- 二巻本訳語釈 (石川美恵著) (東洋文庫 1990)
- 日本学術会議月報  
 第31巻11月～12月号—1990, 第32巻1月～4月号—1991  
 (日本学術会議広報委員会 1990～91)
- 日本語動詞の諸相 (村木新次郎著) (ひつじ書房 1991)
- 日本常民文化紀要 第16輯 (成城大学大学院文学研究科 1991)
- 日本民俗学 182, 183, 184 (日本民俗学会 1990)
- 福岡女学院大学紀要 第1号 (福岡女学院大学 1991)
- プロピレア 第2号 (ギリシア語・文学研究会 1990)
- 文学研究 第88輯 (九州大学文学部 1991)
- 法政大学文学部紀要 第36号 (法政大学文学部 1990)
- みんぱく 12月号—1990, 1月～4月号—1991  
 (国立民族学博物館 1990～91)
- 山口大学教養部紀要 人文科学篇 第24巻 (山口大学教養部 1990)
- 山口大学文学会志 第41巻 (山口大学文学会 1990)
- 立命館言語文化研究 2巻1号—1990, 2巻3号—1991  
 (立命館国際言語文化研究所 1990～91)
- 論集 47 (神戸大学教養部 1991)
- Acta Asiatica 60 (東方学会 1991)
- ArOr Vol. 58 3, 4 (Academia Praha 1990)
- Batuvčir's Specimens of Mongolian Penmanship (G. Kara)

- (Akadémiai Kiadó 1990)
- Bulletin No.129 N. 130 (The Linguistic Society of America 1990)
- English Linguistics Vol. 7 (日本英語学会 1990)
- Idun IX (大阪外国語大学デンマーク・スウェーデン語学科研究室 1990)
- Korean Grammar (H. B. Lee) (Oxford University Press 1989)
- Language Vol. 66 No. 4 (The Linguistic Society of America 1990)
- Lexicon No. 20 (岩崎研究会 1990)
- Linguistic Research No. 8 (東京大学文学部英文学研究室 1990)
- Litteratura 11 (名古屋工業大学外国語教室 1990)
- Metaphor II (Jean-Pierre van Noppen and Edith Hols)  
(John Benjamins Publishing Company 1990)
- Naše řeč 5  
(Academia nakladatelství Československé akademie věd 1990)
- Philologia 22 (三重大学英語研究会 1990)
- Sing Without Shame (Kenneth David Jackson)  
(John Benjamins Publishing Company 1990)
- Slovo a Slovesnost LI 4-1990 LII 1-1991  
Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1990~91)
- Sumerian and Japanese (R. Yoshiwara=Roger Ahlberg)  
(Japan English Service, Inc. 1991)
- Toward a Typology of European Languages (Johannes Bechert,  
Giuliano Bernini, Claude Buridant) (Walter de Gruyter & Co. 1990)
- Traditions Historques des Peuples du Cameroun Central  
(E. Mohammadou) Vol. 1  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1990)
- Verbal Aspect in Discourse (Nils B. Thelin)  
(John Benjamins Publishing Company 1990)

◇ 以下のように、第15回国際言語学会議が開催される予定です。

XVth International Congress of Linguists  
Quebec City, Canada, August 9-14, 1992

organized by Laval University  
(Department of languages and linguistics)  
in collaboration with  
the Canadian Linguistic Association (CLA)  
under the auspices of  
the Permanent International Committee of Linguists

◇ 本学会委員梅田博之氏は、平成3年10月9日、韓国語の研究と普及の功績に対して、韓国政府から文化勲章を授与されました。本学会として、心からお祝い申し上げます。

◇ ギリヤーク語の研究で国際的にもよく知られた本学会評議員服部健氏（元北海道教育大学教授）は、平成3年10月25日、心不全のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

---

◇ 本誌は、文部省平成3年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。